

日本移植学会雑誌「移植」

43(5): 364-367, 2008

市立宇和島病院における病腎移植の予後検討報告

日本移植学会

Report on outcome of renal transplantation cases from unrelated living donors with renal diseases in Uwajima City Hospital.

The Japan Society for Transplantation

背景

平成 18 年 10 月 1 日に宇和島徳洲会病院で腎移植における臓器売買が明らかになり、この調査で、さらに病腎移植が明らかになった。宇和島徳洲会病院で 11 件、市立宇和島病院で 25 件、呉共済病院で 6 件の病腎移植が施行されていた。また、病腎提供をした施設が呉共済病院、岡山協立病院、国保吉永病院、川崎医科大学川崎病院、北川病院、三原赤十字病院の 6 病院に及んでいた。移植関連 5 学会ならびに厚生労働省は、直ちに各施設に調査委員会の設立を要請し、さらに専門委員会においても各分野の専門的判断より病腎移植の行われた状況などを調査することとした。

この病腎移植においては、中国・四国地方の一地域において、倫理的な検討が全くなされず、書面による同意が全くないまま行われ、その結果が全く公表されないという異常な状況で実施されてきたことが第一に問われる。

病腎を提供した病院での調査においては、腎摘出術の適応が問題になる。しかし、病院としての診療録保存義務期間である 5 年以上経過した症例が多く、診療録が残されておらず、その調査は極めて不完全にならざるを得なかった。一方で、病腎を移植した施設では、その移植予後が問われる。病腎移植を施行した 1 施設、宇和島徳洲会病院では不完全な記録から、偏った見解のみを取り上げた恣意的な報告がなされ、当事者は病腎移植が第三の移植として認定すべきである主張している。他方、市立宇和島病院の調査委員会では、公平に 25 症例の予後を調査し日本の腎臓移植症例の予後と比較することを目的に、日本移植学会にその統計解析を依頼してきた。市立宇和島病院では、宇和島徳洲会病院と異なり、長期にわたった完全な予後調査がなされ、そのデータを日本移植学会に提供した。また市立宇和島病院では、この統計解析の結果を公開することを承諾しており、日本移植学会では統計解析をすることとなった。

本稿では、その 25 症例の予後の統計解析データを報告する。

.提供者

市立宇和島病院では1993年より2003年までに25症例の病腎移植が行われた。これらの症例で移植された腎は4施設、市立宇和島病院(20例)、呉共済病院(3例)、岡山協立病院(1例)、三原赤十字病院(1例)で摘出されたものである。摘出の根拠とされる腎疾患は、ネフローゼ症候群(6腎)、腎癌(5腎)、尿管癌(5腎)、尿管狭窄(2腎、うち1腎は悪性疾患合併)、腎動脈瘤(2腎)、腎血管腫(1腎)、後腹膜炎性腫瘤(1腎)、腎膿瘍(1腎)、骨盤腎(1腎)、腎血管筋脂肪腫(1腎)である。疾患の詳細な情報は提供されておらず、判断することはできない。まとめると、悪性疾患が11腎、良性疾患が14腎である。ネフローゼ症候群にて摘出された6腎は、3人の患者から両腎摘出がなされたもので、3人とも術後、血液透析を受けている。提供者の平均年齢は2007年3月の時点で57.7歳であり、70歳代11人、60歳代5人、50歳代3人、40歳代3人、20歳代3人である。提供者の1年生存率は86.1%、5年生存率70.8%、10年生存率57.5%であるが、その死因は明らかにはされていない。

.移植患者

市立宇和島病院で病腎を移植された患者は25人であり、慢性腎不全による血液透析を受けていたが、原腎疾患は明らかにされていない。平均年齢は47.7歳で、60歳代1人、50歳代13人、40歳代7人、30歳代1人、20歳代3人である。悪性疾患による腎摘症例では、悪性部分を切除したのちに移植されたので、移植腎の病理検査はされていない。

.移植予後

25人の病腎移植患者は、2006年3月時点で、14人が生存、9人が死亡、2人が海外のため不明であった。死亡原因は明らかにされていない。悪性疾患群と良性疾患群に分けたKaplan-Meier生存率曲線を図1に示す。おのおのの生着率と同時期の日本の生体腎移植症例の生存率との比較を表1に示す。

25腎の内3腎、ネフローゼ症候群で摘出された2腎と尿管狭窄で摘出された1腎は、移植後に移植腎は全く機能しなかった。悪性疾患と良性疾患で摘出され移植された移植腎のKaplan-Meier生着率曲線を図2に示す。各々の生着率と同時期の日本の生体腎移植症例の生着率との比較を表2に示す。

悪性疾患で摘出され移植された11人の中で、7人が死亡しており、その7人の内5人は移植腎が機能したまま死亡している。その死亡原因は不明である。

.考 察

考察の前に、繰り返しになるが、この病腎移植においては、限られた地域において、

倫理的な検討が全くなされず、書面による同意が全くないまま行われ、その結果が全く公表されないという異常な状況で実施されてきたことが第一に問われなければならない。病腎移植を施行した1施設、宇和島徳洲会病院では短期間で不完全な記録から、偏った見解のみを取り上げた恣意的な報告がなされ、当事者および当該病院は病腎移植が第三の移植として認定すべきであると主張しているが、日本移植学会を含めた専門委員会の結論と大きく異なり、大いに疑問である。また、今回検討している「病腎」移植を「修復腎」移植と称し、修復腎移植を推進しようとする動きもあるが、今回検討している「病腎」は「修復」されてはおらず、それ故、生存率と生着率がきわめて低値であることがわかる。

今回、日本移植学会が担当した市立宇和島病院での病腎移植の予後調査については、**図1**と**表1**に示す如く、市立宇和島病院の症例の生存率は低く、特に悪性疾患で腎摘された腎を移植された症例の生存率は低く、5年生存率が48.5%である。これは同時期の全国集計での5年生存率が生体腎で90.1%であることと比較すると、きわめて低い生存率であるといえる。また、良性疾患で腎摘された腎を移植された症例でも同様に、5年生存率が84.6%である。全国集計と比較するとはるかに低い。さらに、強調されなければならないのは、腎疾患があるが故に腎摘出され、結果的に提供者となった者の生存率である。提供者の1年生存率は86.1%、5年生存率70.8%、10年生存率57.5%である。本来、生体腎提供者は健常者でボランティアであるが故に、腎提供の結果、生命に危険があってはならない。その為、生存率は100%でなければならない。「今回の提供者は病腎の提供であるから、生存率が低いのは、やむを得ない。」という意見も聞かれるが、そのような提供者から摘出した腎臓を移植して良いはずがない。

生着率でみると、**図2**と**表2**に示す如く、移植された病腎の生着率はきわめて低い。悪性疾患で腎摘された腎の生着は一段と低く、5年生着率が15.3%である。これは全国集計の5年生着率が83.4%であることと比較して、異常に低い。生着率がこれだけ低くなった原因の第一は、移植腎が機能したまま患者が死亡したことによる。しかし、生着率は良性疾患で腎摘された腎を移植された症例でも極めて低く、5年生着率が50.0%である。良性疾患の場合、患者死亡は悪性ほど多くはないが、生着率は全国集計と比較して遙かに低い。

以上が、市立宇和島病院から提供された資料をもとに統計解析し、日本の腎移植症例の予後と公平に比較した結果である。日本移植学会としては学会誌「移植」2007年42巻5号「生体腎移植のドナーの適応：病腎移植問題を含む」¹⁾に示したごとく、今回の病腎移植問題においては、生体腎ドナーの選択として、倫理的・道徳的問題、医学的選択、ドネーションに関するリスク、レシピエントに伝染・伝搬するドナー由来疾患のリスク(感染症、ドナー関連悪性腫瘍)を挙げ、更に今回問題となっている「病腎移植」について、医学的・倫理的問題、悪性腫瘍病腎移植、に關しての詳細な考察を行っている。これに病腎移植についての考察は網羅されているので、本報告で病腎

移植そのものについての考察は加えない。また、「病腎移植に関する学会声明」も明記されているので、再掲しない。

移植医療、とくに生体臓器提供者からの移植医療において最も大切なことは、提供者の保護である。今回の「病腎移植」において、腎疾患を持った患者として腎摘手術を受け、結果的に提供者になった者に対して、最適な治療としての腎摘出がなされたどうかは、大きな問題として検討されなければならない。しかし、本調査報告は、移植患者のデータからの移植予後についての検討であるので、提供者側の問題には触れない。

最後に、更に繰り返すが、今回の「病腎移植」において、最も問題とするべきことは、限られた地域において、倫理的な検討が全くなされず、書面による同意が全くないまま行われ、その結果が全く公表されないという異常な状況で実施されてきたことである。しかし、病腎移植を行った3施設のうちの1施設、市立宇和島病院は長期の予後調査を行い、その結果を、日本移植学会に統計解析することを依頼した。日本移植学会では、その結果を報告し、考察を加えた。

文 献

-
- 1) 日本移植学会・編集委員会. 生体腎移植ドナーの適応：病腎移植問題を含む. 移植 2007; 42: 405-412.

表 1 移植患者生存率

	1年	5年	10年
市立宇和島病院			
悪性疾患群(%)	80.8	48.5	48.5
良性疾患群(%)	92.3	84.6	76.2
全国集計(生体腎)* (%)	94.9	90.1	84.0

* 日本臨床腎移植学会,日本移植学会より・
腎移植臨床登録集計報告(2005)より

表 2 移植腎生着率

	1年	5年	10年
市立宇和島病院			
悪性疾患群	71.6	15.3	15.3 %
良性疾患群	71.4	50.0	33.3
全国集計(生体腎)*	94.4	84.4	69.6

* 日本臨床腎移植学会、日本移植学会・
腎移植臨床登録集計報告(2005)より

图1 移植患者生存率

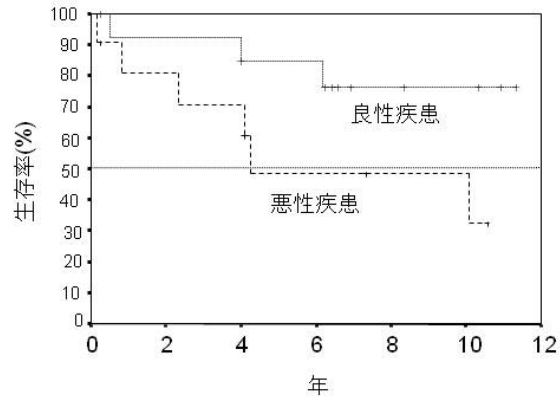


图2 移植肾生着率

